

記者との懇談会の挨拶 2013年4月9日(火) 尾池和夫

地震と原発以外で、大学のことで久しぶりに記者の皆さまとお目にかかる機会、たいへんうれしく思っています。3日に入学式、6日には、京都芸術デザイン専門学校の入学式、7日、東北芸術工科大学の入学式と、まだじっくりと構える時間のないまま、学長職を勤めています。

(1)東北芸術工科大学の入学式に参加しました。こども芸術大学の様子を京都造形芸術大学のものと比べました。ここでも連携と交流が重要と思いました。設立の理念にある最上川と連山に囲まれた土地、縄文文化の土壌の中から生まれた大学という言葉に感動しました。1300年の歴史を持つ京都盆地の京都造形芸術大学との連携の重要性を具体的に感じる式典でした。

(2)京都造形芸術大学の入学式のあと、新入生の保護者の会で、活断層の話をしました。京都盆地が第四紀後期の活断層運動で形成された盆地で、発達した分厚い堆積層の中に、豊富な地下水を含んでおり、世界的にも稀なこの良質の地下水が、京都の豊かな文化を生み出しました。活断層は、ときに大地震を起こします。学生が安心して学習できる環境を確保することが大切で、安全な学習環境を整備するというのが第一の目標です。キャンパスは、花折断層の南部にあります。最新の活動は、今から2800年前から1400年前の間、そのもう一つ前の活動は、今から7900年前から7000年前の間です。次の地震が起こるとマグニチュード7.2。今後30年の地震発生確率は、最大0.6%です。学生の防災意識が重要です。花折断層見学会を実施し、ご家族にも、大学外での生活環境に気を配っていただきたいと思っています。

(3)チンパンジーのアイの絵を展示してあります。人間とは何か、芸術とは何か、絵を描くとはどういうことか、これらを考えてほしいという科学者としてのメッセージです。

(4)地球科学と俳句を続けながら、立ち上がった「文明哲学研究所」の研究活動に積極的に参加して行きたいと思います。これを大いに注目して継続的に取材してほしいと思います。

(5)大学は教育と研究と社会貢献のための開かれた場所でなければなりません。広報の担当者には、どんなことであっても、メディアから学長への取材申込みは、必ず受けるようにと伝えました。

ご協力をよろしくお願いいたします。